

今日もあなたのそばに。明日もあなたのために。

デュポン通信

2015.5
Vol.38

コナガ

【チョウ目 コナガ科】 *Plutella xylostella* (Linnaeus)

加害作物 アブラナ科

発生・形態・被害

世界を股にかけたアブラナ科作物の大害虫である。北日本では越冬できないが、春から夏にかけて風に乗って北上し、北海道でも重要害虫となる。蛾には珍しく、成虫は昼間も活発に飛び回る。終齢幼虫になっても7mmと小さいが、発生数が多いことと、葉の裏から食害すること、そして何より多くの農薬に対して抵抗性を持っていることから、防除が困難である。効果の高い薬剤を見極めつつ、かつ抵抗性を助長させないよう、異なる作用性の農薬を輪番で使っていくことが防除上のポイントである。



コナガの生態を考えた散布での効果的な防除ポイント

① コナガに効果の高い薬剤を選ぶ。

コナガに適用のある殺虫剤は多くあるものの、効果が低い製品やすでに効果の低下が確認されている製品があります。コナガに抜群の効果を示す薬剤を選ぶことは欠かせません。

② 葉裏へムラなく散布する。

コナガの幼虫は葉裏から表皮だけを残して葉肉だけを食害する特性があります。葉裏へムラなく散布し、その際葉内浸透性のある薬剤を用いることで多少のムラがあっても薬剤が行き届き、しっかり防除ができます。

③ 早めに散布する。

コナガは新葉を好んで食害するため、特に苗で被害が大きくなりがちです。コナガを防除するには早期発見、早期防除が基本です。また、薬剤がしっかり届くように、結球始期からの早めの防除が作物の安定的な収穫には重要です。

④ 作用機構の異なる薬剤でローテーション防除をする。

コナガは1世代の期間が短く、年間の発生回数も多いため、薬剤抵抗性が発達しやすい害虫です。同一系統の薬剤の連用は避け、作用機構の異なる薬剤をローテーションでうまく使いましょう。

※害虫の抵抗性、作用機構及びモニタリングに関する参照サイト
(1) Insecticide Resistance Action Committee (IRAC) ウェブサイト [http://www.ircac-online.org]
(2) デュポン株式会社ウェブサイト「デュポン 抵抗性」で検索

適用薬剤 トルネードエース®DF、デュポン™ベリマーク® SC、デュポン™プリロソ®粒剤、プレバソ®フロアブル5、ランネード®45DF
詳しくはこちらをご覧ください。 <http://ag.dupont.jp>